

ひと◆証し



被災地でオーケストラ作りたいたい

「音楽は力のあるものです。これを使って被災地にいる子どもたちを励ましたいのです。2005年から、プロの音楽家、宣教師としてミッション・トゥ・ザ・ワールド教会開拓チームと共に日本で活動しているロジャー&アビ・ラウザー夫妻。東京都心で教会開拓を始めたグレースシティチャーチ東京（福田真理牧師）で奉仕する2人は、東日本大震災直後から被災地支援活動に参加。宮城県石巻市渡波を拠点に、地域の人たちと関わってきた。2人は芸術を通してコミュニティに仕えるためのミニストリー「コミュニティアーティスト東京」(略・CAT、<http://communityarts.jp>)を立ち上げ、音楽を使って被災地の子どもたちに癒しと励ましを提供するプロジェクトを計画している。【中田 朗】



宣教師・音楽家

ロジャー&アビ・ラウザーさん

震災直後から被災地支援へ 音楽仲間とコンサート開催

東日本震災の翌日、千葉のタニエル・アズバロン牧師（長老教会・おゆみ野キリスト教会）から1台のトラックを手に入れたロジャーさんたちは、ペットボトル入り飲料水や生活用品などの救援物資などを載せ、福島県会津若松市の恵泉キリスト教会会津チャペルに向け15日深夜、出発した。

実はそのトラックには、後に「流浪の教会」として知られる福島第一原発から最も近い教会、保守バプ・福島第一聖書バプテスト教会の佐藤彰牧師が同乗していた。トラックは翌日の午前中、会津チャペルに到着。佐藤牧師は、避難してきた信徒60人と涙の再会をし、礼拝をささげた。その養育をしたのがロジャーさんだった。

これを契機に、ロジャーさん、アビさん、グレースシティチャーチ東京と長老教会の有志は足繁く東京と被災地を行き来するようになった。アビさんは当時をこう回想する。「最初は通い、5月頃からテントを張って泊まるようになり、8月に渡波に拠点を与えられてからは、そこに寝泊まりしながら泥出しや家の修理などをした。音楽仲間と被災地でコンサートも開きました」

この活動は日本長老伝道会ならびに各協力教会による被災地支援活動プロジェクト「グレースミッション東北」へと発展。サマリタニス・パスなどのキリスト教支援団体、地元やロジャー夫妻が住む東京・中央区佃で生まれた支援団体など、10以上の支援グループの人たちも協力している。

2人と関係ある人々も、この働きに参加。アビさ

んの妹バツシラさんは、夏休みを利用して来日し、アビさんと一緒に被災地支援を行ったが、今はスワッとして渡波に常駐。アビさんの要請で来た一人の男子神学生も半年間、渡波に留まり、支援活動を行った。さらにシヨリアード音楽院卒の



被災地でオルガン演奏するロジャーさん
ロジャーさんは、アメリカに一時帰国の時、母校で東北の現状を報告した。これを機に今年、ジュリアートのメンバー15人が被災地を訪れ、ロジャーさん、アヒさんと一緒に被災地でコンサートを開いたりした。

「音楽は子どもの心を癒し 町も生き生きしてくる」

これらの活動を経てロジャーさんの中に生まれた
ビジョンが、音楽を通しての被災地支援だった。

「私達には音楽の仲間がいっぱいる。渡波でも尺八やフルートの共演があったり、千葉と石巻の高校生が一緒に演奏したことがある。だから、この音楽で地元の子もたらでオーケストラやアンサンブルを作りたい。一緒に練習することで子どもたちが音楽に熱中できたら、震災で受けた心の傷も癒されるし、音楽を通して支離もたくさんできる。被災地の子どもたちによるオーケストラやアンサンブルでコンサートを開けば、町のコミュニティも生き生きとし、地域のためにもなる。プロの演奏家がその地域に住んだら、それは可能です」

ビジョンはそれだけではなく。この渡波で生まれ
たオーケストラ、アンサンブルで全国を公演し、逆に日本や世界の人々を励ましたり、この被災地からプロの音楽家を育て送り出したいと言う。現在、ACEスタジオの天野亮さん（パーカッションニスト）とバーシニア・ヌバリーさん（東北子どもオーケストラワールド・チャレンジャー）が、13年4月から音楽の子どもプロジェクトを開始するため調査と準備を行っている。

人は、被災地の子どもたちが楽器の練習ができるように、楽器の贈呈を要請している。バイオリンなどの弦楽器、フルート、リコーダーなどの木管楽器、トランペットなどの金管楽器、ドラムなどの打楽器、ピアノなど、何でもOK。

詳細は <http://communityarts.jp/disaster-relief/> 問い合わせは info@communityarts.jp